

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策	
重点的に育成する 資質・能力	(1)既習事項を概念として理解し、生活や学習の場面で活用する資質・能力 (2)複数の情報を整理し、相手意識をもって論理的に表現・対話する資質・能力	
↓		
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)「なぜ」を引き出し、論理的な思考・表現を促す授業の充実【通年】 (2)「個人差」に対応した個別最適な学習と「学びの自覚」の促進(ICT等の活用)【年3回】	

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
↓		
今年度の成果と 次年度の課題	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果	全ての項目において全国の平均の正答率を上回った。特に算数「数と計算」、国語「書くこと」について全国の平均正答率を大きく上回った。 本校の重点的に育成する資質・能力のうち、(1)について、算数「立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる」問題など、基礎的な既習事項の理解を問う問題は正答率が高い。一方で算数「体積の意味を問う」問題は正答率が下がった。(2)について、国語「考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかどうかをみる」問題は正答が半数程度に止まった。算数「二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる」問題は正答率が4割に満たなかった。	
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	基礎的な知識・技能の定着ができていない。 本校の重点的に育成する資質・能力のうち、(1)について、既習事項を概念として理解できている。生活や学習の場面で活用するために、新しい単元と既習事項を結びつける「タテ」の活用のみならず、既習事項と日常を結びつける「ヨコ」の活用の資質・能力が必要である。 (2)複数の情報を整理し、相手意識をもって論理的に表現・対話する資質・能力に向け、「何を聞いているか」問いの意図を意図することが必要である。	

④	さいたま市学習状況調査結果の分析	
特徴的な結果		
↓		
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業	

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	本校の実施する学力向上策(1)として、ねらいに沿った発問を工夫している。キャリア段階Ⅲの教員から示範授業を教員内で公開し、授業力の向上に努めている。発言と発言を結びつけるための見方や考え方を育成していく。 B (2)として、ICTの積極的な活用を推進している。今年度導入されたipadについて、効果的な活用のため、教員間で研修を行う計画を進めている。児童が「学びの自覚」をもち、自足するための基盤づくりを行う。
↓		
学力向上策の 見直し	変更なし	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所